昭和42年10月12日　初版発行

●検印廃止

青春の詩集

滝口雅子編著

¥ 390

製本／徳住製本所
印刷／三洋印刷所
発行
東京都千代田区三崎町2-18-2
振替東京　2939
電話東京(263)0034
二見書房

・愛のよろこび 恋のかなしみ

青春の詩集

滝口雅子編著

二見書房

目

次

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.

青春の詩とこころ

8

1　青春をさすらうあなたに

13

さびしき野辺／立原道造　またある夜に／立原道造　小景異情／室生犀星　山のあなた／カール・ブッセ　旅上／萩原朔太郎　利根の松原／萩原朔太郎　体操／村野四郎　花／ポール・エリュアール

2　恋にめざめるあなたに

33

「愛」より／リルケ　ある少女が歌う／リルケ　まっかなイチゴの木／上田保　野薔薇／ゲーテ　忘れたるにあらねども／サッフォ　初恋／島崎藤村　逢ひて来し夜は／室生犀星　幻影／吉行理恵　ノンレトリック／新川和江

3 恋のよろこび

緑／D・H・ロレンス　私のカメラ／茨木のり子
薔薇／オプストフェルダー　歌曲／ノエル　いとうるわしの五月／ハイネ　わが涙したたらば／ハイネ　わが頬に頬を／ハイネ　君がひとみに／ハイネ　ぼくは彼女の目をふさいで／ハイネ　庭／プレヴェール　サアヂの薔薇／ヴァルモオル夫人
猫／ボードレール　何もかも／ボードレール　ふきあげ／ボードレール　野生の桃／ワイリー

4 恋のかなしみ

夜汽車／萩原朔太郎　昨日にまさる恋しさの／萩原朔太郎　願い／ヘッセ　美しい人／ヘッセ　せつない日々／ヘッセ　雪／グウルモン　あなたも単に／黒田三郎　淋しき二重／鮎川信夫

5 恋のおわり

青年が夜あけの五時に／E・ケストナー　かのひと去りてより／ハイネ　鎮静剤／ローランサン　ミラボー橋／アポリネール　哀しみ／カトリー・バァラ　最後の詩篇／ロベール・デスノス　別離／ポール・フォール　変らぬこころ／ルネ・シャール

6 孤独なあなたに

落葉／ヴェルレーヌ　都に雨の降るごとく／ヴェルレーヌ　あんずの木／ブレヒト　海／ミショー　二十億年の孤独／谷川俊太郎　千鳥と遊ぶ智恵子／高村光太郎　私の接吻／滝口雅子

青春の詩集

青春と詩のこころ

―まえがき―

あなたは今いちばん何が欲しいの？

とたずねられたら、ある人は〝イタリーの靴〟と答えるでしょうし、また、別のひとは〝静かな書斎〟と答えるかもしれません。

誰もが欲しがっているのは実は若さであって、正直に〝若さ〟がほしい、と答えないのは、若さは一度すぎ去ったらよび返すことができないものだと誰でも知っているからです。

青春！　この不思議な魔力を持つ言葉。いま青春のなかにいて、あなた自身がとっぷり青春にひたっているために、この魔法の鈴の音いろがわからない、ということはないでしょうか。

ブリリアンカットの大きなダイヤモンドが目の前にあったら、その美しさ、その輝きは人々をしびれさせます。もし〝若さ〟がダイヤモンドに匹敵し、ひょっとしたらそれ以上であるかもしれないと知ったら――

〝若さ〟は宝石です。

そのやわらかな髪の毛は長く肩に垂れて、そして自然にうねり、髪の毛の一本一本が内側からつやをおびて光っています。そのやさしい頬は、どんな高価な化粧品を朝夕に使っても生み出すことのできない、自然のこまやかさがあります。

何かのことでその少女がふと振りかえったとき、その腰は何としなやかで、柔軟であるでしょう。

なぜ青春はそのように美しいのでしょう?

なぜ青春は宝石のように輝いているのでしょう?

そこには多くの〝言葉〟があるからだ、と私は思います。少女たちが友だちと話しているのをきいていると、言葉はとめどもなくあふれて湧き出て湧き立ちこぼれています。活気にみちみちています。

少女のおしゃべり。とめどもなく、いつつきるということもなく、あとからあとから。

何が起こっているのでしょう?

言葉があふれていること、それは未来があふれていること、未来への好奇心があふれていることです。少女たちは、ぜいたくな麗わしい品物がいっぱい並んでいる飾り窓の前にいます。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.

少女はその品物を買いたくて、欲しくて、永い間ショーウィンドーの前に立ちつくします。

少女はお金を持っていないので、欲しいものを手にいれることが出来ません。何がほしいのか、どれもこれも欲しくなってしまって、わからなくなります。

けれど少女は、もしその気になれば、いつかは手に入れることができます。

少女の未来にひらいた限りない可能性。かもしかのように柔軟な未来。

絵具の色を全部まぜ合わせると白になります。少女が持っている無限の未来と可能性と言葉を混合すると、白になるだろうと私は思います。

そのしるしには、少女がすべて憧れている結婚の衣装は、純白です。

言葉があふれ、心があふれて白になったのです。

ここに青春のほんとうの秘密があります。そこで少女ははじめて出合います。その名は愛、異性との愛の出合い。青春がほんとうにすばらしいのは、はっきりいえば、このことのためです。

そこから、少女の運命は始まり、人間としての苦しみもよろこびも始まります。あなたの心を変えてしまうほど強い力をもって、あなたの中にしのびこむもの。

女はそのためにだけ生きる、

とさえいわれる〝恋〟。

幸せな恋には紅いバラの花をそえて、嫉妬深い恋には黄色いバラをそえて、さびしい恋には白いフリージァの花をそえて――

青春のおしゃべりは、いつ果てるとも見えませんが、恋を知りはじめると、少女は黙りがちになり、考え深くなります。

あるときは日の光の明るいテラスに椅子を並べて、あるときは夕ぐれの高原で、あふれる言葉をどのように抑制し、涙や微笑をどのように見事な美しい詩の花束にするでしょうか。

1

●青春をさすらう
あなたに

さびしき野辺

立原道造

いま　だれかが　私に
花の名を　ささやいて行った
私の耳に　風が　それを告げた
追憶の日のやうに

いま　だれかが　しづかに
身をおこす　私のそばに
もつれ飛ぶ　ちひさい蝶らに
手をさしのべるやうに

ああ　しかし　と
なぜ私は　いふのだらう
そのひとは　だれでもいい　と

いま　だれかが　とほく
私の名を呼んでゐる…。　ああ　しかし
私は答へない　おまへ　だれでもないひとに

またある夜に

立原道造

私らは　たたずむであらう　霧のなかに
霧は山の沖にながれ　月のおもを
投箭(なげや)のやうにかすめ　私らをつつむであらう
灰の帷(とばり)のやうに

私らは　別れるであらう　知ることもなしに
知られることもなく　あの出会った
雲のやうに　私らは忘れるであらう
水脈のやうに

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.